

急な下り坂に見えて比較的なだらかな・・・到着した森の入り口近く

緩やかで急なような長い通りをまっすぐゴールまで向かっていったつもりでいた。

• • • • • ○

女子は氣を引き締め直す。

坂を緩やかに自分なりに工夫して進んでいたようで実はなだらかな崖のような。

いつの間にか到着した森近くの景色を見てホッと胸を撫で下ろした。

ジーンズ姿。で涼しい夜上は白のTシャツである。

感覚やセンスなどを掴む自分なりの旅路。悩んだり動かない時も経て今は左手の腕に小さ目のブランドバッグが一つ

下げてある。それほど高めではない。

ファンタジーのようなイメージが膨らむ。

光るネオン。ワクワク、街の景色を見な

がら息を空気中に吐いた。

ベッドタウンのような閑静な街。かと言え
ばもうちょっとよく見ると賑わっている
ような気もする。

ぼやけているような気もする。女子はよく分かっていない状況のまま、首都のような場所である。

ひとまず女子は森の近くに到着した。

バッグの太めの肩さげを直して森のそ

ば、明かりが消えている電灯の支柱に手を触れた。

暗い星空に冷たい気温、月も浮かんでいる。

ジーンズからタブレットを取り出す。チカチカした小さな画面と星空。

近くの森や草むらスピードの複雑で少し難しい時間の中、女子は期待に胸弾ませる。

まだ夜は深い。朝に来る街もまたこの森
近くのようにだろうと女子は覚悟した。

タブレットを携えて女子はひとまず夜
の街を出た。

明け方まだうっすら月が残っている。時間が経ち首都道路のしばらくの休息、

路地、ガードレールを女子は経験した。

月の下のわざとの涙もまた通りすぎて
肌色にジーンズポケットにW i - F i 。

夜街とタブレットのポケットとは変わ
らずいつも混ざり合わさっている。

日中は涼しい夜とは違ってだいぶ暑く
空は涙でかすんでいる。

昨夜のひとつとき・・・。

ネオンの中に入る。地下ビルで小さな夕食のあとまた自宅に戻った。

マンション、シャワールームの廊下。

女子はビルの窓行き交う交差点とビルの数々を見ながら今後の行方をなんとなく噛みしめた夜に戻る。

部屋の窓の奥の方、シャワーノズルからは冷たい水。夏の暑さに肩が浴びた冷たさをシャワーノズルの水滴が語っている。

ファンタジーと言えば現実のようなんだけどやっぱり空想。

ポケットの中の画面は手に負えないエ
ンタを作り出しながら、

考えてみればなだらかなようにも見え
る過去も混ざり合わせる。

もう一度女子は窓の外近くにある街の道路沿いを見下ろした。近くにモールと信号機がある。

マンション四階である。

• • • • • 。

女子は太ももを交差させる。ファンタジーと現実の合間に心弾む。

シャワールームの中、ハダカ。

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）